

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	①-3	実施計画番号	11	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	焼山地区統合簡易水道事業			事業終了年度	平成29年度
担当課名	水道課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	水道法、地方公営企業法		関連事務事業		
背景や経緯等	老朽施設の更新を図るため、国庫補助制度を活用し、焼山地区、湊沢・片貝沢地区、高田・大畑野地区の3地区簡易水道の統合を進める。事業実施年度(H26~H29)				
事務事業の目的	隣接する3地区の簡易水道を統合し、施設運営の効率化と水道水の安定供給を図る。				
実施状況	詳細設計業務委託、配水管布設工事L=1,529m H27.3月完成予定				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		243	243
	人件費(千円)	0	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	88,000	326,200

【指標】

活動指標	活動指標名①					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	詳細設計業務委託				H27.3月完成予定	
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	配水管布設工事 L=1,529m				H27.3月完成予定	
成果指標	成果指標名①					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	88,000÷542000 (工事の進捗率)	千円	目標値		16.2%	76.9%
			実績値		16.2%	
			達成度(%)		100.0%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 水道事業の経営主体は原則として市町村であることから、行政が将来を見通した需要に対応できるよう事業を継続していくことは妥当である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 活動指標及び成果指標ともに順調に推移しており、今後の事業継続により更に成果の向上が見込まれる。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 国・県と連携し、技術的・財政的観点から効率性の確保に努めている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 同一行政区域内の水道サービスの公平性の観点から、上水道区域に簡易水道及び小規模水道を編入する計画に受益の偏りはない。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

事業計画に沿って順調に推移しており、着実な事業遂行によって、安全で安心して使える水道水の普及率の向上を目指す。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

施設を集約化することにより、維持管理の合理化と普及率の向上を図る。